



編集・発行

上甕中学校 P T A 研修部

所在地・連絡先

薩摩川内市上甕町中甕 191 番地 1

09969-2-0014

## 卒業に寄せて

### 保護者から子どもたちへ

#### 感謝

三年生の皆へ、卒業おめでとう！

皆より後に仲間入りした弦太と楽しい学校生活を共に過ごしてくれたお友達に感謝いたします。また、弦太を見守り成長させてくださった先生方に大変感謝しています。ありがとうございます。また、他と違う島立ちという意味で、段々実感をしてきた私は、一日一日、楽しく大切に、時には厳しく弦太に接してきました。

寂しいという気持ちより、自立していくのだという気持ちが大きく、弦太の成長が楽しみです。弦太もそうですが、たくさんの思い出、経験が人生の引き出しに入ってくれたら、これから先つまづいた時に乗り越えられると思います。

どうか、希望とわくわくする気持ちを忘れず、次の学生生活を充実させ、日々を過ごして欲しいと願っています。

最後に、家族の中心となって弟の面倒を見たり、母さんを気遣ってくれたり、楽しくしてくれた弦太に感謝いたします。とても楽しい家族だったよ！思いっきり高校生活を楽しんでください。ありがとう！そしていつてらっしゃい！

(卒業生保護者 岩下 佐枝子)

#### 息子の島立を前に 今思っていること

「この子とは、たったの十五年しか一緒に暮らせないんだ。」

里音を生んだときからずっと心の中にある母の

想いです。十五年の間に何をしたらいいのか、思い悩んだ事もたくさんありました。そんな時に千葉しのおぶ先生の講演を聴く機会があり、食の大切さを教わりました。とりあえず一緒に料理をする事から始めようと思ひ、やってみると、里音はとても料理好きな子に育ちました。

「食べる事は、生きる事。」

この先もずっと忘れずに、大事にしていてほしいものです。

里音がここまで成長できたのは、たくさんの人のおかげです。江石のじいちゃん、ばあちゃんたち、同級生、先輩、後輩、先生方、そして喧嘩ばかりしていた妹。島を離れてからも大切に想ひ、そして感謝の気持ちも忘れずにいてください。時にはやっかいな事もある人付き合いですが、これからもたくさんの人と関わってこそ、生きていけるものです。

これからの母はというと。里音のふる里づくりに専念していこうと思ひます。いつでもここに、ふる里甕島があります。だからおもいっきり

「里音よ大志をいだけ」

十五年間のすべての事に感謝いたします。

(卒業生保護者 中間 明子)

#### 甕島に育てられた日々

珠凜 卒業 おめでとう。

中学校生活はどうでしたか。

他の友達とはちよつと違う、お父さんのいる中学校で過ごす三年間は、貴重な体験でしたね。

いつか、「学校に行きたくない」という日がくるんじゃないかと、いつも心配していましたが、小学校の卒業式で「お父さんのことを尊敬しています」

と言ってくれた言葉を信じて、帰ってきた時の珠凜の顔を見る度、毎日、ホッとすることでした。

嬉しかったことは、誰よりも甌島のことを大好きだったこと。帰省する度、甌島のことを話す珠凜の目はいつも輝いていましたよ。

一年生の時の授業参観で将来の夢を、芸能人になって甌島をアピールしていきたいと発表していましたが、あの時は芸能人・・・？とびつくりしましたが、今では何となくわかる気がします。

この甌島での生活は、珠凜の大切な宝物になったことでしょう。

今まで、温かくご指導していただいた先生方、いつも側にいてくれた友達、どうもありがとうございます。

(卒業生保護者 池川 美里)

### これからの百恵の幸せを願う

百恵、卒業おめでとうございます。

百恵は、小さい頃よく熱をだし肺炎をおこしたりして、とても心配しました。でも、よく笑い、よく泣き、初めての子育てで一生懸命でした。まわりの方のおかげで幸せに育ってきたと思っています。高校は楽しい事も一杯あると思いますが、一人でしないといけない事も増えてきます。でも、ゆつくり一つ一つこなしていけば大丈夫です。お父さんもお母さんも相談にのるし、いつでも見守っています。百恵の味方です。

百恵は本当にいい友達、いい先生方、地域の方々に恵まれたなあと思います。一杯思い出がありますね。百恵、本当に卒業おめでとう。夢に向かって突き進んでください。(卒業生保護者 内山元史・智子)

### 卒業に向けて

いよいよ卒業のときが来ました。

昨年、兄・由威人が卒業し、茉莉の卒業までわずか一年。分かっていたけれど、あつという間の一年でした。たて続けに二人の子どもたちを送り出す寂しさの反面、また一歩成長した事に喜びも感じます。

これまで、マイペースで心配することもありませんが、何事にも一生懸命に取り組み、芯の強い子に育ってくれました。それも周りの方々の見守りと支え、また共に学び、笑い、涙し、日々を過ごした仲間のおかげだと思えます。本当にありがとうございます。

これからは、楽しい事ばかりではなく、試練もあるかと思うけれど、いろいろな事に関心を持ち、失敗を恐れずチャレンジしてほしいです。どんな時も、私達家族は茉莉の味方だよ。

最後になりましたが、これまで御指導頂きました校長先生をはじめ、諸先生方、地域、PTA会員の皆様、ありがとうございます。

(卒業生保護者 是枝 純子)

### 感謝の心を忘れずに

中学卒業、すなわち十五の島立ち。

とうとう来た、あなたの島立ち。我が家の場合、十年前に長女を島立ちさせ経験済みであるにも関わらず、次女の島立ちを前に、不安や心配ばかりが先にたちオロオロしている情けない自分がいます。年の離れた姉妹のため一人っ子同然で育ってきた娘。甘ったれで寂しがり屋、だけど意志は強く、意外としつかり者のあなた。いつも笑顔で周りを和ませてく

れ、いかなる困難にも立ち向かっていくあなたの姿にたくさんの勇気と元気をもらいました。あつという間の三年間、友達、先輩や後輩、先生方、ありがたい出会いに囲まれ、一つ一つの行事を全力で頑張ることで心身共に大きく成長したと強く感じます。

たくさんの方々から愛が伝わって来たら、声をかけていただける幸せ。感謝の一言につきます。

娘の卒業と共に私もPTA会員を卒業です。教え導いて下さった諸先生方、温かく見守り助けてくださった地域の方々や支え励ましてくれた友に親子共々感謝しています。巣立っていく六人の子供たち、持ち前の明るさと素直な心で前を向き自分の夢を実現するために大きくはばたいってくださ

い。

(卒業生保護者 山口 美幸)

### 中学校三年間を振り返って

#### 地区総体

僕が中学校生活の中で一番印象に残っていること

は、三年生での地区総体です。地区総体での結果は、川薩地区六位入賞。県大会に出場することができました。

地区総体を選んだ理由が一つあります。それは、これまでどの気持ちの違いでした。大会当日は、いつもと同じで緊張してしまい、剣道の練



岩下 弦太

習では大きい声が出なかつたり、場の雰囲気にも飲み込まれたりしました。しかし、六位決定戦では「これで負けたら終了」「部活動引退」という言葉が脳裏に浮かび「ここで終わる訳にはいかない、みんなの分までもっと頑張らなきゃ」と思い試合に挑みました。そして試合に勝つたと同時に、剣道をしてきて良かったなと思えました。

三年間頑張ってきた剣道、地区総体を通して何事も最後までやりきる大切さを身につけることができたとします。この学んだことを島立ち後もたくさんの方に挑戦して立派な大人になれるよう努力していきたいです。

### 海風編集長として

中間 里音

中学校生活三年間で一番心に残っていることは海風が四十周年を迎えたことです。今年の四月にそのことを知ったときは、海風編集長としてのプレッシャーを強く感じました。

「海風タイムトラベル」の記事を書く中で気づくことがたくさんありました。海風の元となったものが、学級新聞であったこと。週

に一度のペースで発行していたこと。題名が「灯台」だったかもしれないこと。父が海風の作成に携わっていたことなど、たくさん発見がありました。今と昔の違いを知り、驚くことがたくさんありました。



今まで二年間作成してきた中で今年の海風は作成していても、読んでいても楽しいものだったと思います。一緒に記事を書いた仲間、訂正やアドバイスをしてくださった先生方、切手収集に協力してもらい海風を読んでくださった地域の方々に感謝したいと思います。また、後輩たちには学校新聞コンクールで一席を目指してがんばってほしいと思います。

### 満ち溢れた達成感

池川 珠凜

私が一番心に残っているのは、三年生での上中祭と地域の文化祭で初の試みで行った合唱です。

夏から始まった練習。私たち三年生は、後輩をリードし、引っ張っていかねければいけない立場なのに、逆に足を引っ張ってしまっていました。いつも注意

されるばかり。本番が近づくにつれ焦り始め、残り数週間というところでやっと全体で合わせられるようになりまし。途中、私はもうだめなんじゃないかと悩んでいましたが、周りの三年生が支えてくれたおかげで最後まであきらめずにリーダーをやりきることができました。迎えた本番、緊張していましたが、会場の方々が拍手や笑顔で聴いてくださったおかげで、楽しく合唱をすることができました。今回初の試みで準備はとて大変でしたが、終わった後は達成感で満ち溢れていました。やってよかつ



たなと思えました。高校生では、あのとときの達成感をまた味わえるように新たなことに挑戦し、最後まであきらめずにやり抜きたいと思えます。また、この三年間で学んだことを糧にこれからも頑張っていきたいです。

### 上中祭の思い出

内山 百恵

私の学校行事での一番の思い出は、上中祭です。海風のことについて劇をしました。私は、

本番ギリギリまでセリフを覚えなかったり、セリフを読むときに抑揚がなく棒読みになってしまったりしました。しかし、本番では、セリフを忘れる部分はありませんが、棒読みにはならず言うことができました。

本番は、たくさんの方が来てとても緊張しました。一、二年生の劇はともうまくて、いろいろな道具も作っててすごいと思いました。

全校合奏では「島人の宝」「エール」「デキキラ」をしました。練習では「エール」「デキキラ」でアコーディオンを弾きましたが、本番近くなってもうまく弾けないことが多かったです。本番では、ミスしてしまうこともありましたが、だいたいは弾けていたのでよかったです。







